

資料3 内閣府青年国際交流事業の概要(平成25年度派遣事業)

<p>国際青年育成交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成6年の皇太子殿下の御成婚を記念して始められた事業で、今年で20回目となります。 ・カンボジア、ドミニカ共和国、リトアニア各国にそれぞれ16人の日本青年を18日間派遣します。 ・訪問国では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、日本文化の紹介、国際協力活動の体験、教育・環境・文化等の課題別の視察、ホームステイなどを行います。また、帰国後の国際青年交流会議では、日本に招へいた外国青年と共に地球規模の諸問題等についてのディスカッションを合宿形式で行います。
<p>日本・韓国青年親善交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と韓国両国政府の共同事業として、昭和59年の日本・韓国共同声明および昭和60年日韓国交正常化20周年を踏まえ、昭和62年度から開始した事業で、今回で27回目となります。 ・韓国に25人の日本青年を15日間派遣します。現地では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、教育・文化・福祉・産業等の各種施設の訪問、ホームステイなどを行います
<p>日本・中国青年親善交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と中国両国政府の共同事業として、昭和54年の日中平和友好条約締結を契機に開始した事業で、今回で35回目となります。 ・中国に20人の日本青年を10日間派遣します。現地では、現地青年との双方の社会事情に関するディスカッション、文化・スポーツ交流、教育・文化・福祉・産業等の各種施設の訪問などを行います
<p>東南アジア青年の船</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とASEAN各国による共同事業として、我が国とASEAN各国間の共同声明に基づき、昭和49年度から行っている事業で、今回で40回目となります。 ・日本青年約40人とASEAN10か国の青年約280人が、約50日間、日本国内活動・船でのASEAN各国の訪問、各寄港地での様々な交流活動を行います。船内では、異文化理解、環境、教育等のテーマについての英語によるディスカッションをメインのプログラムとするほか、各国の社会事情の紹介、文化・スポーツ交流などを行います。訪問国では、政府首脳等への表敬、現地の青年たちとの交流、ホームステイ、各種施設の訪問などを行います。
<p>グローバルリーダー育成事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の成果を継承して改組し、25年度新たに実施する事業です。 ・急速に進展するグローバル社会の各分野で活躍できる青年リーダーを育成するため、日本青年(約90人)と世界8か国の青年(約70人)が日本国内での8日間の陸上研修及び9日間の船上研修(国内寄港地での活動を含む)に参加し、ディスカッションやセミナーなどの各種の研修や交流活動を行います。また、日本参加青年は、船上研修終了後、ディスカッションのテーマに応じて4か国(バーレーン、フィジー、メキシコ、トルコ)のうち、1か国を訪問します。
<p>青年社会活動コアリーダー育成プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者関連、障害者関連、青少年関連分野の社会活動に携わる日本青年(各分野8人)を、デンマーク(高齢者)、ニュージーランド(障害者)、英国(青少年)の各国に10日間派遣し、各分野の社会活動で中心的担い手となる人材を育成します。 ・訪問国では、関係機関や施設等の訪問、派遣分野の背景事情や社会活動に関する先進的な取り組みなどを学びます。